

小柴貯油施設跡地利用基本計画



平成20年3月
横浜市返還施設跡地利用プロジェクト

1 旧小柴貯油施設の概況

接收年月日	昭和23年10月 3日
返還年月日	平成17年12月14日
所在地	金沢区柴町、長浜、幸浦二丁目、並木三丁目
面積	<p>土地： 526,205 m² 国 有 511,859m² (97.3%) 市 有 4,746m² (0.9%) 民 有 9,600m² (1.8%)</p> <p>建物： 727 m² (国 有)</p> <p>水域： 約 470,000 m²</p> <p>地域地区等の指定：市街化調整区域、工業専用地域、工業地域、第1種住居地域、第1種中高層住居専用地域 第1種中高層住居専用地域、準防火地域、第3種風致地区、金沢産業団地地区特別工業地区</p>
概 要	<p>34基のタンクがあり、航空機燃料が備蓄されていた。</p> <p>また、海上には、Aバース（大型タンカー用）と、Bバース（小型タンカー用）を含む制限水域が設けられ、長浜水路沿いにパイプライン（約 1,200m）が敷設されていた。</p>
[経 過]	<p>昭23.10. 3 旧日本海軍の施設が米軍により接收された。</p> <p>昭48. 3.22 日米合同委員会において、金沢地先埋立に伴うパイプライン移設集約等について合意された。</p> <p>昭50.12. 4 昭和49年9月に着手したパイプライン移設工事の完了に伴う関係財産の引渡しを国に対して行った。</p> <p>昭52. 2.24 日米合同委員会において、地下貯油タンク1基（通称18号 タンク）を施設内に移設することが合意された（国は昭54.4 移設工事完了）。</p> <p>昭56.10.13 6号タンクが爆発し、火災が発生したが、市消防局消防隊と米軍消防隊との共同活動で消火された。</p> <p>平16.10.18 日米合同委員会において、一部（約10ヘクタール）返還の方針が合意された。</p> <p>平17.10.18 日米合同委員会において、陸地部分全域と制限水域の一部（約4.6ヘクタール）の平成17年末を目途とする返還予告及び保持される制限水域に係る名称・使用条件の変更が合意された。</p> <p>平17.12. 2 小柴貯油施設の返還後の管理について国に要請した。</p> <p>平17.12.14 小柴貯油施設の陸地部分全域と制限水域の一部が返還された。</p>

1 旧小柴貯油施設の概況 ～現況～

○面積約53haのうち約6割が斜面緑地となっています。
 ○地下、地上合わせて34基のタンクが残されています。



図 斜面分布図

(ランドスケープ編、特集ランドスケープ・ファニチャー、ランドスケープ<6> Vol.2, No.2, 1971)

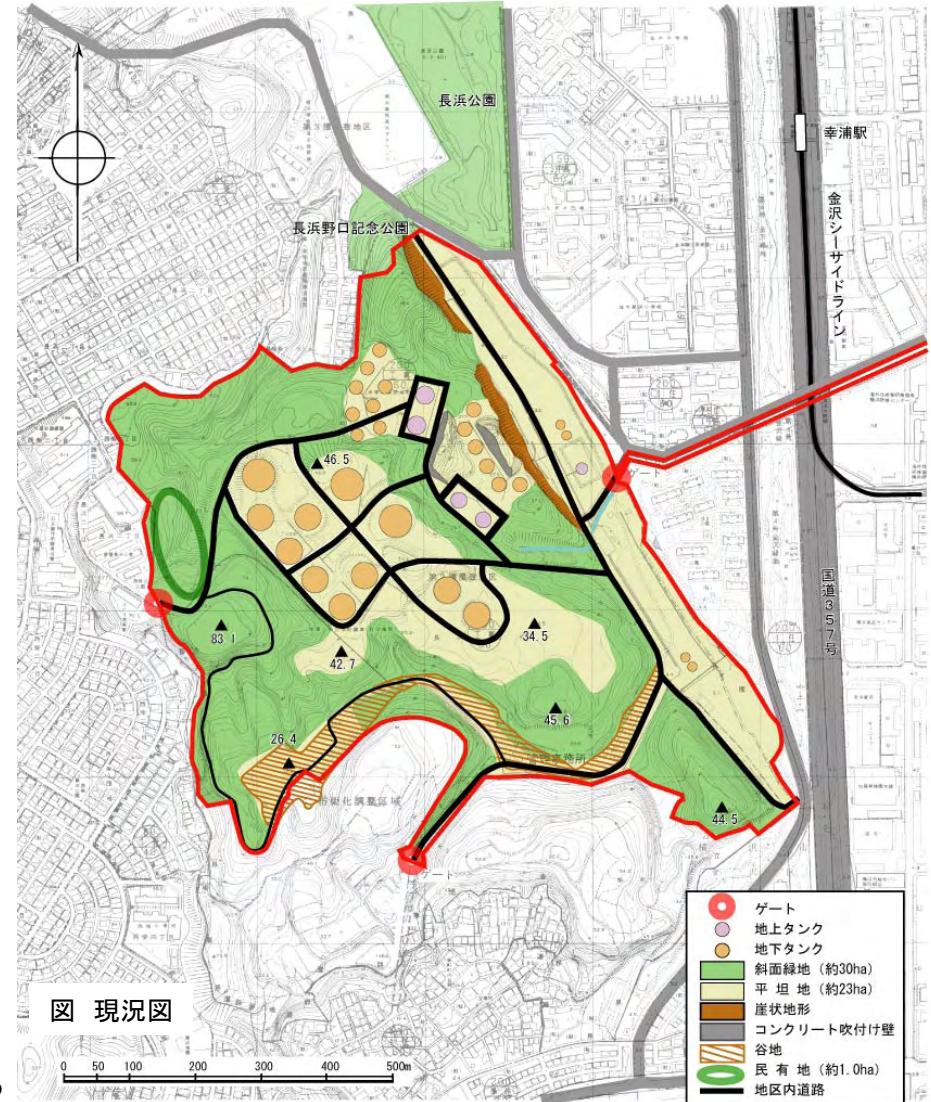


図 現況図

1 旧小柴貯油施設の概況 ～標高～

○標高の最も高い地点と低い地点との差は約80mあり、起伏の多い地形となっています。



※都市計画基本図を基に作成したものである。

1 旧小柴貯油施設の概況 ～タンクの概要～

○29基ある地下タンクの内空体積は合計約46万m³です。

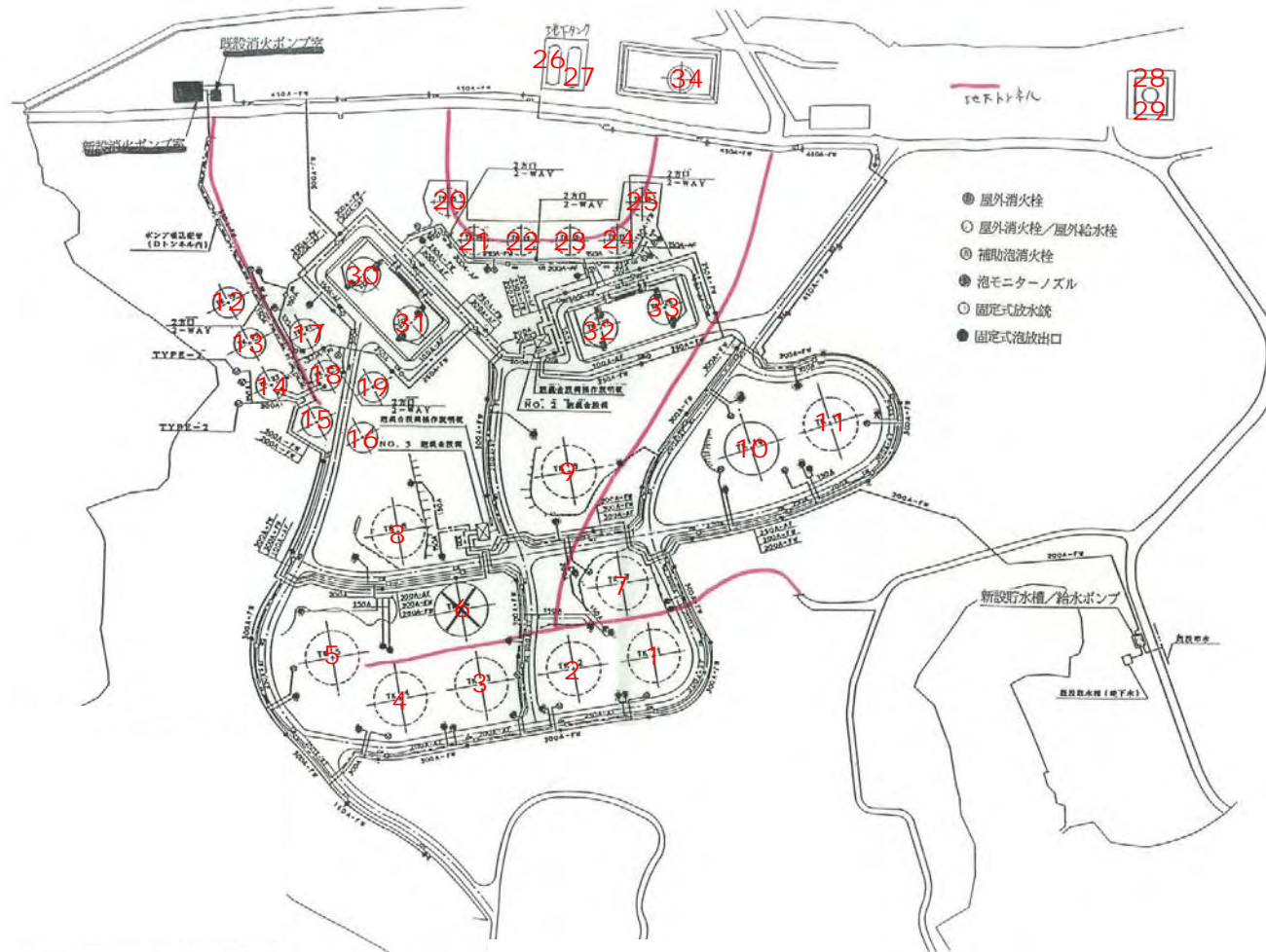


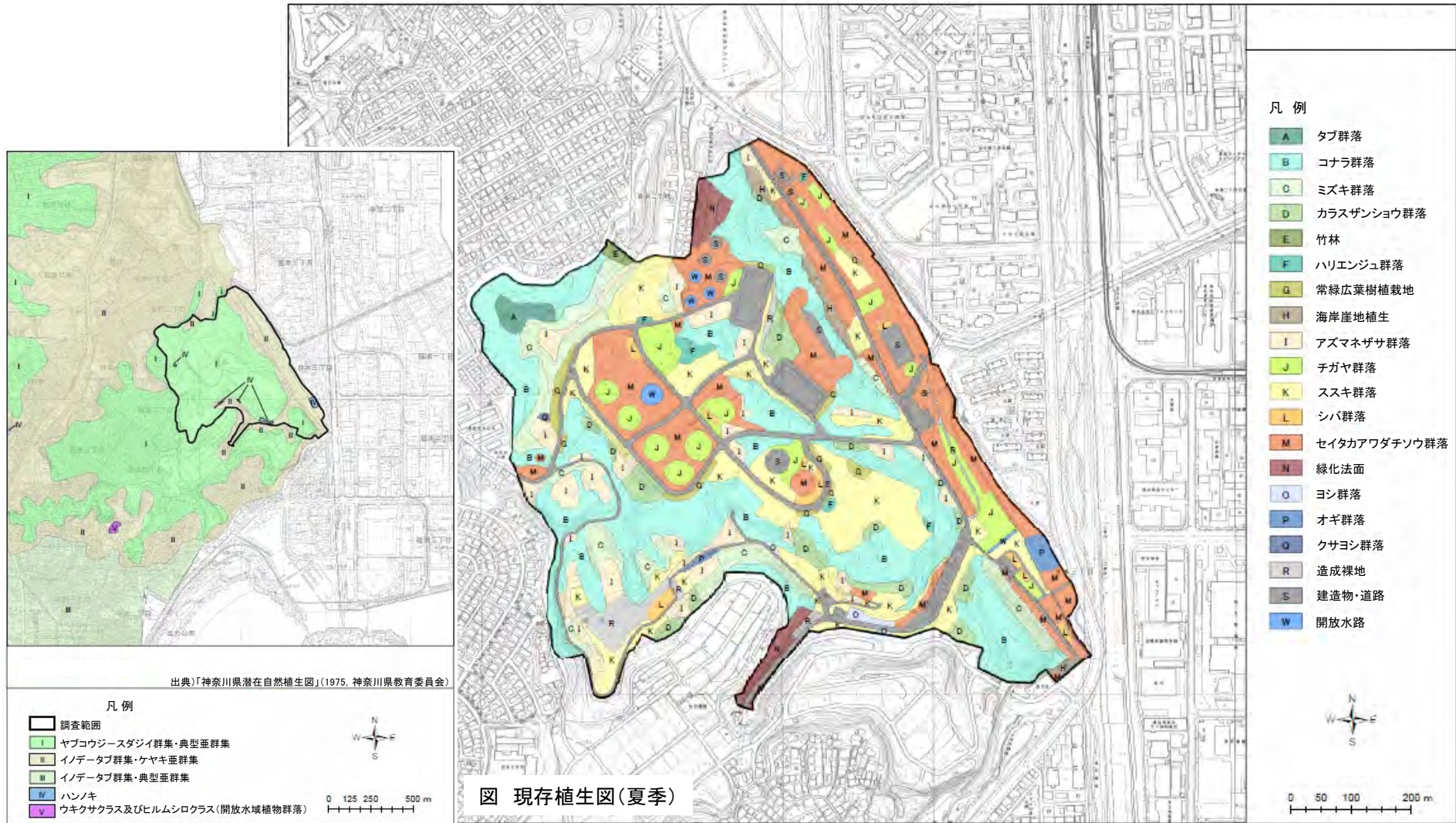
図4 タンク位置図

	直径 (m)	高さ (m)	内空体積 (m ³)	備考
1	38	28	34,006	
2	38	28	34,006	
3	38	29	35,140	
4	37	28	32,240	
5	38	28	34,006	
6	38	28	34,006	S56爆発
7	38	28	34,006	
8	38	29	35,140	
9	38	29	35,140	
10	38	29	35,140	
11	38	28	34,006	
12	18	20	5,595	
13	18	20	5,595	
14	18	21	5,850	
15	18	21	5,850	推定
16	18	21	5,850	推定
17	18	20	5,595	
18	18	21	5,850	
19	18	21	5,850	推定
20	18	20	5,595	
21	18	20	5,595	
22	18	20	5,595	
23	18	20	5,595	
24	18	20	5,595	
25	18	20	5,595	
26			585	2基ずつ 10*18*6.5のスペースに格納
27			585	
28			585	
29			585	
30	23	11	地上	
31	23	11	地上	
32	23	11	地上	
33	23	11	地上	
34	15	9	地上	
計			458,781	

内空体積は、高さ上部余裕高として一律2mを加えて算出している。

1 旧小柴貯油施設の概況 ～植生～

○動植物調査の結果、約1,200の種が確認されました。
 ○現地の植生は以下のとおりで、コナラ群落为中心の林層となっています。



1 旧小柴貯油施設の概況 ～水路～

○北側(C地区)の水路は、流量は微量で伏流箇所も多い小規模な水域で、サワガニやカワニナなどの生息が確認されました。
 ○南側(D地区)の水路は、緩い流れのある溜まりで、サワガニ、カワニナやヘイケボタルなどの生息が確認されました。

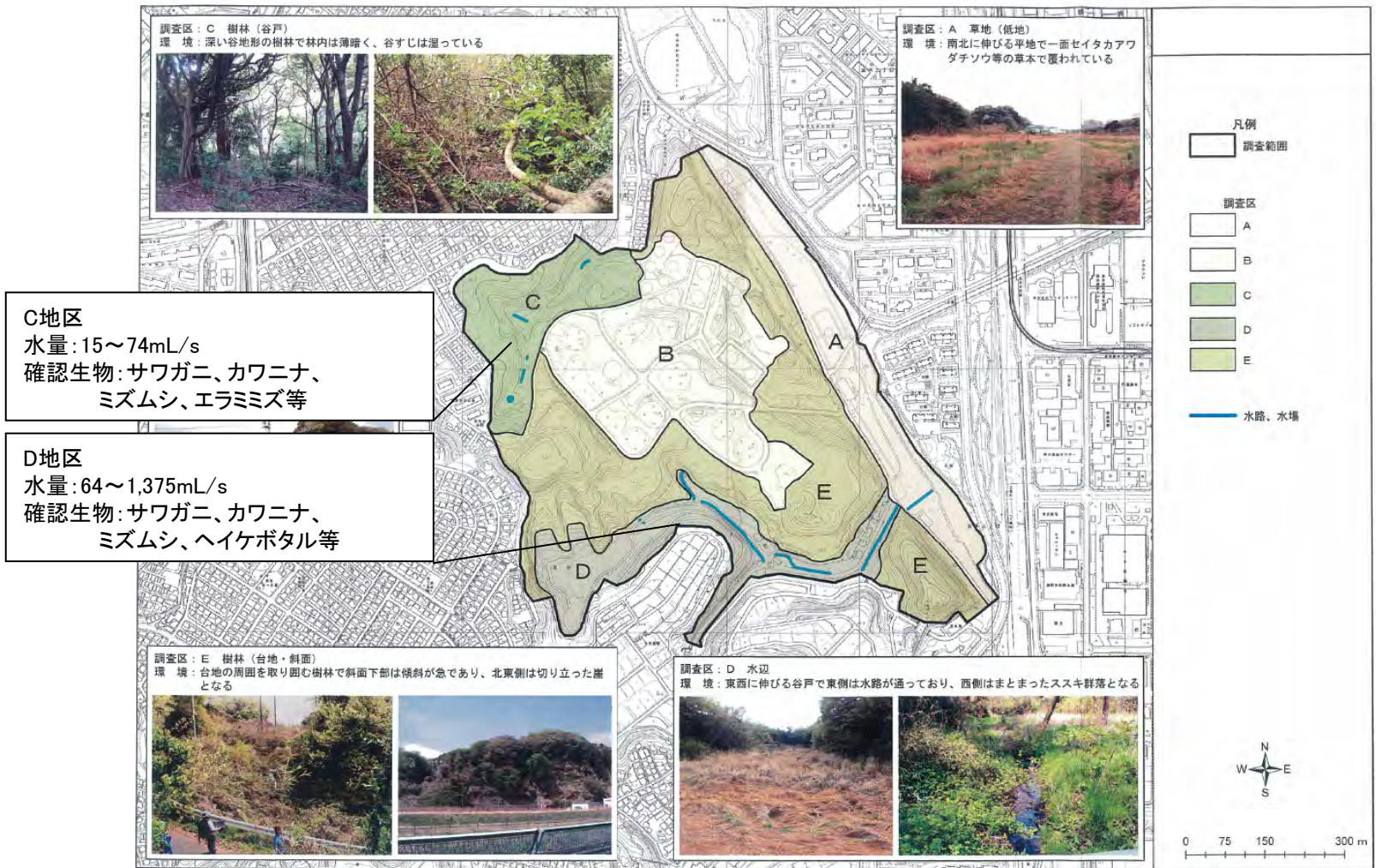


図 水路位置図